

第3回シンポジウム

平成28年9月1日(木)

19:30~21:30

ウェルポートなださき かしの木ホール

参加者:91名

【運営委員33名 オブザーバー58名】

《うち地域10名》

1、会長挨拶

2、基調講演

『訪問看護の役割について~365日の紙ふうせん~』

訪問看護ステーション紙ふうせん 管理者 玉置君江氏

岡山県内訪問看護ステーションのうち県南、北区は激戦区。

看護師7名、事務員1名 今年で20年

訪問看護はかかりつけ医が必要と認めると0歳から利用できる。

看護師は保助看法には療養上の世話と診療の補助、働く場所が変わるだけだが、

訪問看護には家族がいる。訪問看護では、家族の森(ジャングル)に入ると考える。

QOL ライフには3つの意味がある。

「生活の質」が上がると「人生の質」が上がり、「命の質」も上がる

家族の定義:絆を共有し、情緒的な親密さによって互いに結び付いた家族と自覚している事

情緒的なつながりを共有している存在

家族の小規模化や個人化が今後の療育や介護に影響する。 介護によるマイナス・プラスの影響
事例紹介 2例

3、シンポジウム

【訪問看護ステーションからの報告】

- ①こうなん訪問看護ステーション 管理者 三村氏
- ②こうなん訪問看護ステーション 理学療法士 原田氏
- ③ゆめの里訪問看護ステーション 看護師 森重氏
- ④ゆめの里訪問看護ステーション 作業療法士 山木氏
- ⑤西ふれあい24時間訪問介護サービスセンター 管理者 本山氏

4、質疑応答、意見交換(渡邊先生・西崎先生)